



### 『ドローン・ビジネスの衝撃』

小型無人飛行機が切り開く新たなマーケット』

多くの注目を集める小型無人飛行機ドローンとは、いったい何なのか？本書は、ドローン業界のキーパーソンへのインタビューも交えながら、技術や特性、想定されるビジネス、各国の規制、国内外の活用例などさまざまな視点からドローンに迫る。話題のドローンの現状を掴むのに最適の一冊だ。

小林 啓倫著  
朝日新聞出版／2015年

### 『ワーク・シフト』

事例やデータをもとに技術の進化や経済のグローバル化、エネルギー・環境問題の深刻化、人口構成・社会構造の変化を分析・予測し、近未来の働き方やキャリアの選択肢を提示。働き方を主体的に選択して変えていくこと（『ワーク・シフト』）で未来はつくられると説く。私たちの働き方を問い直す一冊。

リンダ・クラットン著、池村 千秋訳  
プレジデント社／2012年

### 『人工知能 人類最悪にして最後の発明』

自己進化を遂げる人工知能の実現は人類滅亡につながるという警鐘を鳴らす。SF映画でも繰り返し描かれてきたように、人工知能の進化は、予測不可能な事態をもたらす、暴走して世界を乗っ取るという最悪のシナリオにつながるのか。「知能爆発」とも呼ばれる恐るべき未来を暴き、全米を震撼させた話題の書。

ジェイムズ・ハラット著、水谷 淳訳  
ダイヤモンド社／2015年

### 『いづれ社会が日本を変える』

地元の高齢者たちが料理に添える「つまもの」を採って売る「葉っぱビジネス」で高収入を得ている徳島県上勝町。高齢者の社会参加を促す地域活性化のモデルとしても今や全国的に知られるビジネスだが、成功の秘訣はどこにあるのか。プロデューサーである著者が企画実現に向けた経緯をたどり、今後の夢を語る。

鈴木 俊博著、横石 知二監修  
ポプラ社／2013年

### 『ソーシャル・ビジネス・ケース』

少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』

女性の社会進出や少子高齢化が進む社会における介護や福祉のあり方、限界集落化が深刻化している山間地域での生活など、日本社会の課題に取り組むビジネスモデルを紹介。経済的成果に限らず、新しい働き方・暮らし方の価値観をも生み出すイノベーションが、今、求められている。

谷本 寛治編著  
中央経済社／2015年

特集  
生活者から見る  
「スマート」  
その9

## スマートについて考えるための10冊

スマートは、未来の暮らしをどのように変えるだろうか。さらなる技術の発達によって、資源の効率化は進み、利便性は飛躍的に向上、提供されるサービスにおける地域間の格差はきっと解消されていくことだろう。しかし大切なのは、生活者の視点で使いこなす工夫を模索し続けること。スマートと上手につきあうための、ヒントとなる10冊を選びました。



### 『地方創生ビジネスの教科書』

2014年にベストセラーとなった『地方消滅』の著者にして、日本創成会議の座長による最新の「地方創生ビジネス」ガイド。自然の恵みを生かす町や、資源に恵まれない地域の発想力・伝統産業の再生を核とした人びとの取り組みなどによる、新しい働き方や暮らし方、サービスの事例をわかりやすく紹介する。

増田 寛也監修・解説  
文藝春秋／2015年

### 『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』

コンピュータが人間のように「学習する」しくみ、すなわちディープラーニング（深層学習）を獲得したとき、その先に待ちうけるのは大いなる人類の危機か、はたは新たな世界の創造か。日本トップクラスの研究者が、人工知能研究のこれまでの試行錯誤を丁寧にとり、その未来像を描く知的興奮に満ちた一冊。

松尾 豊著  
角川EPUB選書／2015年

### 『スローネット IT社会の新たなかたち』

めざましいITの発達は、仕事のスピードを上げ、生産効率を向上させる反面、弊害の大きさもあらわにした。本書は情報学の重鎮が、情報技術に翻弄されない生き方を模索しつつ、IT社会をどのように生きるかについて説いた指南書。本号の特集「生活者から見る「スマート」」の骨子を理解する絶好の書。

西垣 通著  
春秋社／2010年

### 『専門記者200人が選ぶ 明日を拓く55の技術』

技術系雑誌やウェブサイトなどで活躍する、およそ200人の専門記者が、将来期待できると見定めた技術を紹介。「人と一体になる」「人の代わりに務める」「人を助ける医療技術」など、人と技術のつながり・組み合わせから、未来の暮らしをイメージさせる。技術から見たスマートの可能性を示す事例集。

日経BPテクノインパクトプロジェクト編著  
日経BPコンサルティング／2013年

### 『ソーシャル・キャピタル入門 孤立から絆へ』

東日本大震災の際、海外から日本人の「美徳」として称賛された人びとの譲り合いの精神は、まさに「お互い様」の心=社会的絆を表すソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の好例だ。目には見えにくい、教育や健康等に多大な影響を与えている社会関係資本をどう育み、活かすのか。第一人者が理論と実践を紹介する。

稲葉 陽二著  
中公新書／2011年



Special Feature

Make Our Life "Smart"

Part 9